

エコツアーガイド・児嶋翼ができるまで！

児嶋 翼

この度、天覧山・多峯主山の自然を守る会の活動に参加させていただくことになりました、児嶋翼と申します。

私の自己紹介を兼ねて、少し自然に関わる活動に対する想いを書かせていただきます。



私は小さい頃から昆虫が大好きで、毎日ように虫を捕まえては観察をずっとしている幼少時代でした（写真1）。大学でも生き物に関わる勉強がしたく、東邦大学の生物学科で様々な生き物に出会い勉強をしてきました。卒業論文では特にメダカの減少理由について研究を行い、多くの里山の自然破壊を目の当たりにしてきました。その経験から自然を守る仕事をしたい！と思うようになり、自然保護の1つの方法である「自然に興味を持ってもらう」をテーマにした環境教育を実践する自然ガイドになろうと考えました。卒業後は栃木県のハローウッズ、埼玉県自然学習センターで自然ガイドの経験値を積みました。20代後半では更に自然の知識を深めたいと思い、自然環境研究センターの自然環境調査員として当時世界自然遺産に登録されたばかりの小笠原諸島での生物調査という貴重な経験をすることができました（写真2）。その後小笠原諸島の母島に惚れ込み、環境省職員として移住し、更には自然ガイドとしても活動していました（写真3）。そして、現在は飯能でエコツアーガイドをしつつ、狭山丘陵



写真3 小笠原国立公園にて



写真2 小笠原での生物調査

でトトロのふるさと基金の自然保護活動に携わっています。ちなみに今でも趣味は昆虫探しです（写真4）！

ここで私の自然に関わる仕事に対する想いを少し書かせていただきます。自分の屋号は「人と自然のまなびや」、人と自然が共存するキッカケをまなぶ場所という想いをこめて小笠原諸島時代に立ち上げたもので、現在も飯能で継続して自然体験活動を実践しています。



写真4 昆虫の灯火採集

少し大きな話になりますが、これからの自然を守っていくのは今の子どもたちです。この子たちは家でゲームをしていては自然の素晴らしさに触れることすらできません。そういった子たちを自然の中に連れ出して、将来自然を大切にできる大人になるための原体験を提供したいのです（写真5）。実際私もその一人でした。そもそもの私の飯能との出会いは、親戚が飯能にいる関係で幼少期からの縁でした。更に小学校時代の遠足も天覧山でした。今思えば、ここでの経験がとても大切だったのだと思い起こします。更には小笠原諸島でのエコツーリズムの経験が、同じ第一号エコツーリズム認定団体である飯能市と繋がるのも必然的だったかもしれません。30年以上前の記憶では現在と変わらず残っている自然もあれば、壊れてしまったものもあると感じています。その中で天覧山とその周辺は人と自然の共存を体現して、またそれを持続的な形として見せてくれている非常に魅力的な場所と感じています。とても大切にしたい場所です。その様な想いを持って、今年で私の飯能での活動は7年目になります。天覧入でのホテルのモニタリング1000の調査も今年で5年目になります。そして、天覧山とその周辺で年間40回程度自然体験活動を実施して3年目になります。自然は一瞬たりとも同じ顔を見せてくれはせず、非常に奥深く面白いものです。この40回という回数は参加者に毎日毎日違う姿を見せてくれる四季の変化や面白さを感じてもらうことが目的です。私の目指す姿は自然に対してはジェネラリストであり、天覧山とその周辺に対してはスペシャリストであることができるよう頑張りを続けることです。今後、天覧山・多峯主山の自然を守る会の活動の中で、更に勉強させてもらい、これからも恒久的な自然が維持できるよう協力させていただけると嬉しいです。これからどうぞよろしくお願い致します。



写真5 子どもたち向けのエコツアー



のなかま
てんた

クサギ

葉をもんでにおいを嗅ぐと、くさいにおいがするので、クサギという名がついた木です。ただ、おいしいにおいをするという人もいます。ピーナツバターや、きなこ餅のにおいを感じる人もいますので。最初からくさいと思いつつ、先入観は、禁物です。クサギは里山で見られる木ですが、気が付いている人は少ないかもしれません。葉と違い、甘い香りのする白い優雅な花を咲かせます。モンキアゲハという大きなチョウが、花の蜜を吸いに来ます。実も素敵です。がくが赤い星型になり、実は藍色の宝石のよう、素敵なブローチみたいです。



文・原田恵子 絵・森人

クサギ●臭木・常山木

学名 *Clerodendron trichotomum*

英名 Harlequin glorybower

シソ目 シソ科 キランソウ亜

科 クサギ属 クサギ

落葉小高木

臭木咲く辻に手描きの道標

石山恵子

近道は臭木の花のさかりかな

草間時彦